

## 25年9月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成25年 8月20日～ 9月10日

## 2. 調査実施方法

全国の国産材製材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
9月分の回答企業数は18社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)=[「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)−(「減少」の評価を行った回答の割合)×2−(「やや減少」の評価を行った回答の割合)]÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

## ア. 国産材

## (1) 製材用原木荷動き動向 Weight. D. I.

品目		25/9月	10月	11月
入荷動向	スギ	△ 13.6	50.0	54.5
	ヒノキ	△ 30.0	25.0	35.0
	カラマツ	△ 50.0	△ 50.0	0.0
	トドマツ	△ 25.0	0.0	25.0
消費動向	スギ	27.3	45.5	40.9
	ヒノキ	16.7	33.3	33.3
	カラマツ	0.0	50.0	50.0
	トドマツ	0.0	0.0	0.0
在庫動向	スギ	△ 27.8	△ 5.6	0.0
	ヒノキ	△ 31.3	△ 12.5	△ 6.3
	カラマツ	△ 100.0	△ 100.0	△ 50.0
	トドマツ	△ 50.0	△ 25.0	0.0

入荷は、スギ、ヒノキは9月のマイナスから10,11月はプラスに、カラマツは9,10月の大きなマイナスから11月はゼロに、トドマツは9月のマイナス、10月のゼロを経て11月はプラスに。  
消費は、スギ、ヒノキともにプラス基調、カラマツは9月のゼロから10,11月のプラスに、トドマツは3ヶ月連続の横ばいで推移。  
在庫は、スギ、トドマツは9,10月のマイナスの後、11月は横ばいに、ヒノキはマイナス基調、カラマツは大きなマイナス基調で推移。

## (2) 製材原木価格動向 Weight. D. I.

品目	25/9月	10月	11月
スギ	54.5	40.9	27.3
ヒノキ	72.2	27.8	5.6
カラマツ	0.0	50.0	50.0
トドマツ	0.0	25.0	25.0

スギ、ヒノキ原木は強含みから強保合も11月に向けプラス幅縮小、カラマツは保合から強含み、トドマツは保合から強保合。

## モニターからのコメント

(原木荷動き)・カラマツ丸太は入荷回復の兆し感じられない。直接的には天候悪く運材できないこと、工場の需要に供給がマッチしていないことが要因だが、環境問題から間伐が先行し対象林分が少なくなり間伐の出材も少なくなっていること等も影響している。・スギ丸太は原木市場等での丸太は入荷量減っているようだが、当社では山元から直接仕入れており入荷順調。スギの消費は注文増加のため残業早出で消費増。在庫は虫害材増で丸太在庫控えている。・スギは展示会を控え出材増加。消費は毎月フル生産。・入荷は天候不順で山から運材できないため少なく、在庫が不安。・入荷は季節的に増加傾向だが天候のため出材に遅れ、消費は職人不足で急激な増加は出来ないが順調に伸びている。・スギは天候も落ち着き需要期に向けて入荷増加。製品発注の増により原木消費もやや増加するが生産量の大幅な増はできず。在庫は消費以上に入荷増で在庫やや増。・入荷は8月はどの市場も在庫なしだったが、9月に入りやや増加、消費は本需に向け生産スタート。・原木出材少なく高値継続、集材に苦労、消費は原木在庫少なく大幅増産できない、来月以降の出材増に期待、在庫は低位水準で推移の見込み。・ヒノキ入荷は全体としては横ばいだが、6m材は依然としてどの地域も減少傾向で集めにくい、4m径16-18品薄感ある、秋需を見越して消費量を少し増やすことも検討、10月、11月受注状況見ながら調整。在庫は単価合えば増やす。・天候不順で出荷減少しているが天候回復で若干持ち直す、生産停滞しないよう工場メンテナンスがカギ、市場の在庫は丸太が出荷減に伴い減少気味。8月は雨多く出材が減少、消費は注文多いが生産量一杯。・天候落ち着き需要期に向けて入荷増加、製品発注量の増で消費も増加するが生産量増加できず、消費以上の入荷で在庫増。・スギ、ヒノキとも徐々に出材増加、秋から冬にかけて順調な入荷見込み、需要も年末にかけて尻上がり増加と予想。在庫は横ばい。

(原木価格)・カラマツは供給不足から上昇の可能性。トドマツは変化なし。・スギは当社では価格変動ないが市場では中目値上がりしている。・スギは夏枯れ。・スギ、ヒノキ非常に少ない、今後の天候、出材量に期待。・ヒノキ並材で1,000~2,000円/m<sup>3</sup>上昇するも順調に出材増えれば落ち着く。・スギの丸太径級により不足が発生し一部の径級が上昇。・9月に入り価格が大幅に上がった。・無い高で来月中まではある程度高値推移。・8月は高値続いたが9月に入り少しは落ち着くだろう、岡山県は高値続いている、6m材は依然高

## 25年9月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

## (3) 製材品荷動き動向 Weight. D. I.

品目		25/9月	10月	11月
生産動向	スギ	31.8	50.0	45.5
	ヒノキ	16.7	38.9	44.4
	カラマツ	△ 50.0	0.0	50.0
	トドマツ	0.0	0.0	0.0
出荷動向	スギ	36.4	50.0	45.5
	ヒノキ	27.8	38.9	44.4
	カラマツ	0.0	50.0	50.0
	トドマツ	0.0	0.0	25.0
在庫動向	スギ	△ 31.8	△ 31.8	△ 31.8
	ヒノキ	△ 37.5	△ 25.0	△ 31.3
	カラマツ	△ 50.0	△ 50.0	0.0
	トドマツ	0.0	0.0	0.0

生産は、スギ、ヒノキはプラス基調、カラマツは9月の大きなマイナスから10月のゼロを経て、11月はプラスに、トドマツは横ばいで推移。  
 出荷はスギ、ヒノキともプラス基調、カラマツは9月のゼロから10、11月のプラスに、トドマツは9、10月の横ばいから11月はプラスに。  
 在庫は、スギ、ヒノキともにマイナス基調、カラマツは9、10月の大きなマイナスから11月は横ばいに、トドマツは横ばいで推移。

## (4) 製材品出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		25/9月	10月	11月
スギ	柱角 KD10.5×3	16.7	31.8	36.4
	柱角 KD12×3	13.6	27.3	36.4
	通し柱 12×6	12.5	12.5	12.5
	桁角	25.0	18.8	12.5
	母屋角	27.8	22.2	16.7
	タルキ	18.8	12.5	12.5
	間柱	22.7	18.2	22.7
	ヌキ	11.1	16.7	16.7
	平割	11.1	16.7	16.7
	ラミナ	16.7	33.3	33.3
ヒノキ	柱角 KD10.5×3	28.6	28.6	21.4
	柱角 KD12×3	7.1	21.4	14.3
	土台角 10.5×4	31.3	31.3	25.0
	土台角 12×4	21.4	28.6	21.4
	通し柱 12×6	12.5	12.5	12.5
	ラミナ	12.5	12.5	12.5
カラマツ土台角10.5×4		—	0.0	—
" 梱包仕組み板		0.0	0.0	0.0
" ラミナ		0.0	0.0	0.0
トドマツサンギ		—	—	—

スギ製材品及びヒノキ製材品とも総じて強保合、カラマツ製材品は総じて横ばい。

## モニターからのコメント

(製材品荷動) ・カラマツ製品需要落ち込み予想以上に少なく全道的に堅調な需要続く。産業用・建築用とも輸入材高騰で国産材へ需要シフト。カラマツ製材在庫はおおむね適正在庫に落ち着く。・スギは注文増で早出残業でフル生産体制。スギは消費税駆け込みで県内着工が増え出荷も増。・荷動きは好調、フル生産で在庫なし。・生産は順調に増加傾向、出荷はA材、B材とも動きは順調。・スギ乾燥材に不足感も、未乾燥材に伸びが無く生産増とならない。製品の発注増により在庫はやや減少。・出荷は8月より動き出てきた。・出荷は好調推移と予想、大波無くとも高位安定しそう。・秋需見越して完成品を持つ、受注は少し上向きか、羽柄材はグリーン材は動き悪いがKD材は引合いあり。出荷は9月は前半から受注好調、増加が続くかどうかかわからない。・生産は側板処理のライン増設効果に期待、出荷は地域ビルダー等国産材を使用する工務店の仕事が出てくる事を期待、滞留在庫の解消に全力で取り組める環境になりつつある。・生産、出荷ともに生産量一杯、在庫は7-8月の出荷増えやや減少。・スギ、ヒノキは出材に応じて生産量を増やす、好調な荷動きは年末まで続きそう。在庫は横ばい。

(製材品出荷価格動向) ・スギは価格変わらず、ただし10月より製品値上げの予定。・スギはできるだけ値段を平に売るよう努力。・エゾマツサンギの価格は丸太状況次第。・スギは全体的に製品の不足感あるものの単価上昇に繋がらない。・9月は値上げ難しそう。・スギ、ヒノキともに原木高で来月は製品価格を上げざるを得ない、間柱やラミナ価格はWWの影響あつて上げ難いが。ヒノキ変動なし。スギ、ヒノキとも川下の要望が強く変わらない。・スギ1,000円-2,000円/m3アップを願う。・スギは好調な需要に支えられ若干値上げが通りだしたが、品目によりバラツキ。ヒノキは丸太高騰で製品の方も安値が見られなくなった。

## 25年9月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 3

イ. 外材

## (1) 製材用原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		25/9月	10月	11月
仕入動向	米マツ丸太	0.0	0.0	0.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	-	-	-
	北洋アカマツ丸太	-	-	-
	北洋アカマツ原板	-	-	-
消費動向	米マツ丸太	0.0	0.0	0.0
	NZラジアータ	0.0	△ 50.0	△ 50.0
	北洋エゾマツ丸太	-	-	-
	北洋アカマツ丸太	-	-	-
	北洋アカマツ原板	-	-	-
在庫動向	米マツ丸太	0.0	0.0	0.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	△ 50.0
	北洋エゾマツ丸太	-	-	-
	北洋アカマツ丸太	-	-	-
	北洋アカマツ原板	-	-	-

製材用原木仕入は、米マツ丸太、NZラジアータ丸太ともに横ばいで推移。  
消費は米マツは3ヶ月連続の横ばい、NZラジアータ丸太は9月のゼロから10、11月はマイナスに。  
在庫は、米マツは横ばいで推移、NZラジアータ丸太は9、10月の横ばいから11月はマイナスに。

## (2) 製材用原木等購入価格動向 Weight. D. I.

品目	25/9月	10月	11月
米マツ丸太	△ 50.0	50.0	25.0
NZラジアータ丸太	0.0	50.0	50.0
北洋エゾマツ丸太	-	-	-
北洋アカマツ丸太	-	-	-
北洋アカマツ原板	-	-	-

米マツ丸太価格は9月のマイナスから10、11月はプラスに、NZラジアータ丸太は9月の横ばいから10、11月はプラスに。

## モニターからのコメント

(原木荷動) 特になし。

(原木価格動向) ・円安でやや上昇。

25年9月分

## 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 4

## (3) 製材品の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		25/9月	10月	11月
生産動向	米マツ製材品	0.0	0.0	0.0
	NZラジアータ製材品	50.0	50.0	50.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—
出荷動向	米マツ製材品	0.0	25.0	0.0
	NZラジアータ製材品	50.0	50.0	50.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—
在庫動向	米マツ製材品	0.0	△ 25.0	△ 25.0
	NZラジアータ製材品	0.0	△ 50.0	△ 50.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—

製材品生産動向は、米マツ製材品は横ばいで推移、NZラジアータ製材品はプラス基調で推移。  
 出荷動向は、米マツ製材品は9月の横ばいから10月のプラスを経て11月は再び横ばいに、NZラジアータ製材品はプラス基調で推移。  
 在庫は、米マツ、NZラジアータ製材品とも9月の横ばいから10、11月はマイナスに。

## (4) 製材品の出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		25/9月	10月	11月
米マツ平角		0.0	0.0	0.0
米マツ正角		0.0	0.0	0.0
米マツ小割		0.0	0.0	0.0
北洋エゾマツタルキ		—	—	—
北洋アカマツタルキ		—	—	—
NZ梱包材(割板)		0.0	50.0	50.0
NZ梱包材(割角)		0.0	50.0	50.0
NZ土木用材		0.0	50.0	50.0
その他		—	—	—

製材品の出荷価格は、米マツは横ばいで推移、NZラジアータ製材品は9月の横ばいから10、11月はプラスに。

## モニターからのコメント

(製材品荷動き) ・秋需増加。

(製材品出荷価格動向) ・10月より2,000~3,000円/m3値上げ。